

3 各教科の問題ごとの結果分析と授業改善のポイント

(1) 国語（中学校第2学年対象）

1 話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができる。

(1) 話の内容を正確に捉えることができる。

【話す能力・聞く能力】

【問題の概要】

（音声を聞いて答える問題）
 吉崎さんたちの学校では、国語の授業で、十一月に行われる合唱コンクールで会場に掲げる学級の横断幕のアイデアを考えることになりました。グループで横断幕のアイデアをまとめ、学級内で発表し、投票で最も多くの票を集めたものを実際につくって、合唱コンクール当日に会場に掲げます。
 これから、吉崎さんたちのグループの話し合いの音声流れます。あなたもグループの一員になったつもりで次の音声を聞き、あとの問いに答えなさい。
【吉崎さんたちのグループのワークシート】（図版省略 資料編参照）
 吉崎さんのグループが、横断幕のキャッチフレーズを「ひびけハーモニー」から「届けハーモニー」に修正することにした理由として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 「届け」とした方が広い会場にふさわしくてハトのデザインにも合ったメッセージになるから。
 イ 「ひびけ」より「届け」とした方が自分たちの立場だけをより強調したメッセージになるから。
 ウ 歌声を会場いっぱいひびかせたいという自分たちの気持ちが表われたメッセージになるから。
 エ 自分たちの「思い」が歌声に乗って届いてほしいという願いが籠もったメッセージになるから。

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ（正答）	その他	無解答
1.7%	5.2%	12.2%	80.6%	0.1%	0.2%

1 (1)は、話し合いの中で、話題の流れに沿って話を正確に聞き取ることができるかをみる問題である。話し合いでは、「ひびけ」に代わる案として「伝われ」が示され、さらに検討して「届け」になっている。正答は「エ」で、80.6%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは「ウ」で、12.2%である。この誤答の要因として、「ひびけ」という当初案について話し合っていたときの内容と混同してしまったことによるものと考えられる。誤答した生徒には、話し合いの流れ（「ひびけ」→「伝われ」→「届け」）に沿って、キーワードなどを捉え、箇条書きでメモをとるなどして整理しながら聞き取ることについて指導することが大切である。

(2) 話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる。

【話す能力・聞く能力】

【問題の概要】

「背景に大きく虹を描いてみたらどうかな。」という「北見くん」の発言をさらに深めることにつながる質問として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア 全体的にさびしい感じがする今のデザインをよりよくするには、どのような工夫を加えますか。
 イ 今のデザインをより引き立たせるためには、どの位置にどれくらいの大きさで虹を描きますか。
 ウ ハトが一羽ではさびしい感じがするので三羽を増やすとよいと思うのですが、どう思いますか。
 エ 花をたくさん描くというアイデアと虹を描くというアイデアとでは、どちらが優れていますか。

【結果分析】

ア	イ（正答）	ウ	エ	その他	無解答
46.9%	44.9%	1.0%	6.9%	0.0%	0.3%

1 (2)は、話し合いの流れに沿って適切な質問をすることができるかをみる問題である。正答は「イ」で、44.9%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは「ア」で、46.9%である。この誤答の要因として、発言のもととなった課題についての質問であり、話題の方向性を捉えられなかったことによるものと考えられる。誤答した生徒には、「示されている情報」や「不足している情報」な

どを整理しながら聞くことの指導を継続的に行っていくことが大切である。

(3) 二つの意見を聞いて内容を理解するとともに、観点を明確にして比較することができる。

【話す能力・聞く能力】

【問題の概要】

横断幕のデザインについての「大川くん」の意見と「北見くん」の意見とを比べたものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「大川くん」の、背景にたくさんの花を描くという意見の方が、話し合いのテーマに沿った提案になっている。

イ 「北見くん」の、背景に大きく虹を描くという意見の方が、どのような効果があるかが示されて分かりやすい。

ウ 「大川くん」の、「おんぶの風」を虹の色に塗るという意見の方が、根拠が明確に述べられていて説得力がある。

エ 「北見くん」の、ハトが空を飛んでいる様子を描くという意見の方が、虹にふさわしいデザインになっている。

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
2.0%	8.5%	84.1%	4.9%	0.1%	0.4%

1 (3)は、異なる二つの意見を聞き、話し合いの流れに沿って適切に評価することができるかをみる問題である。正答は「ウ」で、84.1%の正答率である。誤答の要因として、「ア」は既に却下となった大川くんの意見についての評価であり、ここで比較すべき意見を整理できなかったことによるもの、「イ」は北見くんの示していない（情報が不足している）効果の評価しており、両者の意見をそれぞれ整理することができなかったことによるもの、「エ」は二人とも述べていない意見であり、話し合いの内容を正確に聞き取ることができなかったことによるものと考えられる。話を聞く際に、「聞くときのポイント」のように観点を明確に示し、評価させながら聞かせる工夫をすることが大切である。

(4) 適切な関心・意欲・態度をもって、話すこと・聞くことについての学習に取り組もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

【問題の概要】

あなたが、この話し合いの続きに参加するとしたら、どのようなことを意識して参加しますか。次のアからエまでの中には適切なものがいくつかありますが、あなたの考えに最も近いものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大川くんと北見くんの意見を参考にして、自分なりのアイデアを考えたり発言したりするよう意識して参加する。

イ 大川くんと北見くんの意見について、どちらの意見の方が根拠が適切であるかを判断するよう意識して参加する。

ウ 大川くんと北見くんの意見は参考にせず、自分独自のアイデアを考え出すことに集中するよう意識して参加する。

エ 大川くんと北見くんの意見について、自分が感じたことや考えたことを積極的に発言するよう意識して参加する。

【結果分析】（下段の「平均正答率」とは、それぞれの選択肢を選んだ生徒の国語における平均正答率を表す。）

	ア(正答)	イ(正答)	ウ	エ(正答)	その他	無解答
反応率	57.5%	6.8%	1.5%	33.7%	0.1%	0.4%
平均正答率	74.9%	65.4%	50.3%	73.0%	53.0%	30.0%

1 (4)は、既習の内容を他の場面で適切に生かそうとしているかをみる問題である。正答は「ア」、

「イ」、「エ」のいずれかで、98.0%の正答率である。「ア」は他者の意見を参考にしながら自分の考えをまとめようとしている。「イ」は異なる複数の意見について観点を明確にして評価しようとしている。「エ」は話題の流れに沿って話合いに参加しようとしている。

音声は「(大川さんと北見さんの意見の) それぞれのよさについて、もう少し話してみましようよ」というセリフで終わっているため、ア<エ<イの順でより適切な意欲・態度となる。

【授業改善のポイント】話合いを深める力を育む指導の充実を図る

「聞く力」を育てる指導を充実させ、話合いを目的に沿って進行し、互いの意見や考えを深めたり広げたりすることのできる力を着実に身に付けさせることが大切である。

課題

「正確に聞き取る力」は身に付いている。

その一方で「聞きながら考えをまとめる力」「聞いて評価する力」に課題がある。

その結果…… 話合い活動が深まったり広がったりしていかない。

話合いを目的に沿って進行し、互いの意見や考えを深めたり広げたりする力を育成する

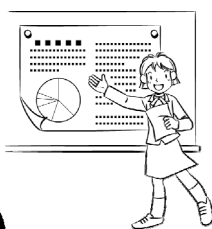
【聞く力を育成する指導の充実】

◆聞きながら自分の考えをもつ力を育む。 ◆聞いてさらに相手から引き出す力を育む。

【話合い活動の内容の充実】

◆互いの意見や考えを深めたり広げたりできる話合い活動を設定する。

〈指導例〉大江戸中学校CM制作企画会議 一話し合っ、考え合っ、深め合っ・広げ合っ



◆活動◆

大江戸中学校を宣伝する30秒のラジオコマーシャルを作成する。
グループで企画書を作成 → 最優秀作品を地域の商店街で放送

◆ねらい◆

話合いを通じて互いの意見や考えを深めたり広げたりしながら課題を解決する力を身に付ける。

課題とゴールを明確に示す

指導のポイント！

- 「一つの正解を出す」のではなく「全員が納得できる案を示す」ことを意識させましょう。
- 「互いの意見を発表し合っ」のではなく「考えを結集してゴールを目指す」ことを意識させましょう。
- 話し合っ際の観点を示し、意識させましょう。(加える、修正する、転換する、補強する など)

より効果的な 学習活動へ

グループの意見がどのように変化していったかを理由とともに記録で残す。
どのような効果をねらってどこにどのような工夫をしたのかを明らかにする。

活発で効果的な話合い活動のために……

- ◆何を話し合えばよいのかが明確に示されていますか？(話合いのゴールはどこか)
- ◆一人一人が異なる意見や考えをもつ課題になっていますか？(互いに学び合えるか)
- ◆話合いの成果を実感させる工夫をしていますか？(どう広がったか、どう深まったか)



②(1)(2)(3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)から(3)までの一を付けた漢字の読みをひらがなで書きなさい。

(1) 十羽ほどのわたり鳥が、横に連なって空を飛んでいく。

(2) 学校図書館の中に、絵本を展示するコーナーを設ける。

(3) 午後から雨になったので、屋内でテニスの練習をする。

【結果分析】

(1)	「つら (なって)」と解答 (正答)	「つな (なって)」と解答	その他	無解答
	93.4%	0.1%	4.7%	1.8%
(2)	「もう (ける)」と解答 (正答)	「もお (ける)」と解答	その他	無解答
	90.4%	0.4%	6.3%	2.9%
(3)	「おくない」と解答 (正答)	「やない」と解答	その他	無解答
	76.6%	16.5%	6.1%	0.8%

②は、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができるかをみる問題である。使用頻度は高いものの読みで課題があると思われるものを出題している。(3)は平成28年度に「家屋」の読みを出題し、正答率は30.4%であった。

③(1)(2)(3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)から(3)までの一を付けたカタカナの部分に漢字を直し、楷書で書きなさい。

(1) 試験を受ける教室まで、案内表示にシタガって進む。

(2) 新しい駅が完成して、これまでよりも町がサカえた。

(3) 電車に乗って、友人と上野のハクブツ館に出かけた。

【結果分析】

(1)	「従」と解答 (正答)	「順」と解答	「下～」と解答	その他	無解答	
	59.5%	0.3%	0.3%	14.8%	25.1%	
(2)	「栄」と解答 (正答)	「盛」と解答	「繁」と誤答	その他	無解答	
	62.8%	10.9%	0.3%	8.0%	18.0%	
(3)	「博物」と解答 (正答)	「物」は正しく書けているが「博」の右上に点を付けずに解答	「物」は正しく書けているが「博」を誤答 (右上の点以外で)	「博」は正しく書けているが、「物」を誤答	その他	無解答
	76.6%	12.5%	4.9%	0.2%	0.5%	5.3%

③は、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができるかをみる問題である。使用頻度は高いものの書きに課題があると思われるものを出題している。(3)については、平成28年度に「専門」を出題し、正答率は55.7%であった。

④(1) 語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

「四つの漢字が組み合わせあって一つの言葉をつくっているのですね。」の四つのが直接かかっている部分として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 漢字が イ 組み合わせあって ウ 一つの エ 言葉を

【結果分析】

(1)	ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
	84.3%	8.3%	2.4%	4.5%	0.1%	0.4%

4(1)は、修飾・被修飾の関係を正しく理解し、文の中で適切に書くことができるかをみる問題である。正答は「ア」で、84.3%の正答率である。この設問の連体修飾語と4(4)の連用修飾語の正答率や誤答の傾向を分析し、指導に生かすことが大切である。

4(2)(3) 熟語の意味や組み立てを理解し、文の中で正しく使うことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

(2) 本文中の「A」に入る一意専心と同じ意味の四字熟語を漢字で正しく書き表したのもとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一石二鳥 イ 一朝一夕 ウ 一心不乱 エ 一挙両得

(3) 「B 関心」の「B」に入る語として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不 イ 無 ウ 非 エ 否

【結果分析】

(2)	ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
	3.5%	4.7%	81.7%	9.5%	0.2%	0.4%
(3)	ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
	4.8%	90.4%	2.2%	1.8%	0.5%	0.3%

4(2)(3)は、熟語の意味や組み立てを理解し、文の中で正しく使うことができるかをみる問題である。熟語の指導に当たっては、知識として覚えさせるだけで終わらず、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の指導において使用させる場面を意図的に設定し、定着を図ることが大切である。

4(4) 語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

「しっかりと一つ一つの漢字の意味を確かめます。」のしっかりとが直接かかっている部分として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一つ一つの イ 漢字の ウ 意味を エ 確かめます

【結果分析】

(1)	ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
	16.2%	5.2%	23.9%	54.3%	0.1%	0.5%

4(4)は、修飾・被修飾の関係を正しく理解し、文の中で適切に書くことができるかをみる問題である。正答は「エ」で、54.3%の正答率である。4(1)と比較し、生徒の課題を分析し、実態に応じた指導を行うことが大切である。

【授業改善のポイント】 語彙を増やし語感を磨く指導の充実を図る

「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の指導と関連させ、「読める・書ける」から「使える」につなげ「語彙を増やし語感を磨く」指導を充実させることが大切である。

課題

語彙力（理解し使用できる言葉の量や質）に課題がある。

指導のポイント！

- 文章を書かせる際に、「熟語を 20 種類以上使う」、「四字熟語を三つ効果的に使う」、「熟語を使わない」などの条件を付けることで、意図的に言葉に向き合わせることができます。
- スピーチなどを発表させる際にも、「同音異義語のある熟語は使わない」、「ことわざを二つ以上入れる」、「外来語を使わない」などの工夫をさせると語彙力の育成に効果的です。



- 5 場面の展開や登場人物などの描写に注意しながら文学的文章を読み、内容を読み取ることができる。
 (1) 表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができる。 【読む能力】

【問題の概要】

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(文章は、土橋章宏「スマイリング! ―岩熊自転車 関口俊太」による)資料編参照

岩熊の店に三日行くのをやめただけで、急に時は流れなくなった。とあるが、この表現について説明したものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何もかもがいやになっている俊太の気持ちを、読者に直接的に伝わるように細かな部分まで詳しく表現している。

イ 時間の感覚がなくなりとまどっている俊太の気持ちを、読者に具体的に伝わるようにありのままに表現している。

ウ 時がたつのをひどく遅く感じている俊太の気持ちを、読者に感覚的に伝わるようにたとえを用いて表現している。

エ 何もすることがなく退屈している俊太の気持ちを、読者に映像的に伝わるように修飾語を多用して表現している。

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
15.7%	17.8%	51.7%	14.3%	0.0%	0.5%

5(1)は、表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができるかをみる問題である。正答は「ウ」で、51.7%の正答率である。誤答の要因として、「ア」は俊太の心情を自暴自棄と捉えてしまったことと比喩表現を読み取ることができなかったこと、「イ」は俊太の心情をとまどいと捉えてしまったことと「三日」「時は流れなくなった」といった表現を具体的に捉えてしまったこと、「エ」は俊太の心情を退屈と捉えてしまったことと「時は流れなくなった」を映像的に捉えてしまったことによるものと考えられる。誤答した生徒には、この一文だけを見て考えるのではなく、前後の場面や描写に着目させ、それらと関連付けさせながら読み取るよう指導することが必要である。また、比喩などの表現技法について確認し、その内容や効果を読み取ったり自分で書いたりすることができるようにすることも大切である。

- (2) ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。 【読む能力】

【問題の概要】

「俺の自転車をなめるんじゃないねえ。」とあるが、「岩熊」がこのように述べたわけとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たやすく壊れる自転車でないことを強い口調で伝えることで、俊太の心配を取り除いてやりたいと思ったから。

イ 自分が俊太を許していないことを感情を込めて伝えることで、俊太にさらに深く反省してほしいと思ったから。

ウ 新しい自転車が完成したことを大げさな表現で伝えることで、俊太と達成の喜びを分け合いたいと思ったから。

エ 自分が信用されていないことへの不満を正直に伝えることで、俊太に自分のもとを去ってほしいと思ったから。

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
92.3%	2.4%	2.2%	2.6%	0.0%	0.5%

5(2)は、ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができるかをみる問題である。正答は「ア」で、92.3%の正答率である。誤答した生徒には、この場面に至るまでの岩熊と俊太の交流や、岩熊の人物設定などを丁寧に読み解かせていくことが必要である。この言葉を言ったときの岩熊の表情や口ぶりを想像させることも効果的である。

(3) ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができる。

【読む能力】

【問題の概要】

これで全て終わった——。とあるが、このときの「俊太」の気持ちとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目の前の自転車に気持ちが通じたように感じ、自転車を元の通りに修理してくれた岩熊に心から感謝する気持ち。
- イ かすかな希望まで消えてしまったように感じ、これでもう自分が自転車に乗ることはないのだと絶望する気持ち。
- ウ ようやく自分の責任を果たせたように感じ、これから新たな目標をもって自転車に乗れることに期待する気持ち。
- エ 自分が果たす責任がなくなったように感じ、思い残すことなく自転車から離れることができると納得する気持ち。

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
19.8%	8.7%	21.2%	49.7%	0.1%	0.5%

⑤(3)は、ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができるかをみる問題である。正答は「エ」で、49.7%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは「ウ」で、21.2%であった。この誤答の要因として、俊太が考えていた「責任」の内容を捉えることができずに文章後半部の内容から読み取ってしまったことによるものと考えられる。また、「ア」の誤答の要因としては、文章後半部の内容をもとに俊太の心情を捉えてしまったことによるものと考えられる。誤答した生徒には、俊太が果たそうとしていた「責任」の内容を的確に捉えさせるとともに、それまでの出来事と俊太の気持ちの動きがどのようにつながるのかを捉えさせるよう指導することが必要である。

(4) ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。

【読む能力】

【問題の概要】

岩熊がおごそかに言った。とあるが、この表現から読み取れる「岩熊」の様子として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア それまでの乱暴な口調から徐々に丁寧な口調にすることで、俊太の考えの誤りを明らかにしようとしている様子。
- イ それまでの軽い口調から改まった口調にすることで、俊太に自分の真剣な気持ちを理解させようとしている様子。
- ウ それまでの優しい口調から厳しい口調にすることで、俊太に練習の大切さを改めて実感させようとしている様子。
- エ それまでの親しげな口調からよそよそしい口調にすることで、俊太の安易な考えを引き締めようとしている様子。

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
39.6%	34.0%	13.6%	12.1%	0.1%	0.6%

⑤(4)は、ある場面での登場人物の様子を読み取ることができるかをみる問題である。正答は「イ」で、34.0%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは「ア」で、39.6%であった。この誤答の要因として、口調の変化と俊太への意図との因果関係を考えず内容の展開からのみ捉えてしまったことによるものと考えられる。「ウ」も「ア」と同様の要因であり、「エ」は「おごそかに」の意味を文脈から捉えたり「よそよそしい」「安易な」といった語句を正しく読み取ったりすることができなかったことによるものと考えられる。

授業においては、「おごそかに」の意味を確認させてこの場面での岩熊の様子を捉えさせる指導も考えられる。しかしここでは、それまで岩熊の口調や態度からの変化と、そのきっかけなどを丁寧

に捉えさせることで、「おごそかに」の辞書的な意味のみに解釈を集約させないことが大切である。

文学的文章の読解においては、心情や様子を表す言葉や表現がある場合でも、それまでの記述をもとに、その言葉や表現を広げさせたり深めさせたりする指導が効果的である。

【授業改善のポイント】描写や表現の工夫を読み取る力を育む指導の充実を図る

身に付けさせたい力を明確にし、目的に沿った学習活動を設定して、読むことの教材を取り上げた指導を行うことが大切である。

課題

描かれている出来事や話の展開を理解することはできる。

その一方で、「**文脈の中における語句の意味を捉える力**」「**表現の効果を読み取る力**」に課題がある。

その結果…… 人物の心情や情景描写をきめ細かく味わうことができない。

人物の心情や情景描写をきめ細かく味わい、より深く物語を理解する力を育成する

【身に付けさせる力を明確にする】

「内容理解」に重点を置いた指導から、「**能力育成**」を目的とする指導へと転換する。

【力を着実に育む指導を工夫する】

力を育むために、**教材をどのように扱い、どのような学習活動を設定するか**を工夫する。

〈指導例〉「大造じいさんとがん」再発見 ーより深く読み取り、より深く味わうー

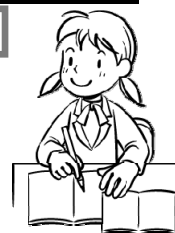
課題とゴールを明確に示す

◆活動◆

小学校で学習した「大造じいさんとがん」の新たな魅力を発見して報告する。

◆ねらい◆

描写や表現、人物の描き方等に注目して文章を読み、その工夫を捉えて物語の読みに生かすことができる力を身に付ける。



指導のポイント！



- 語句の使い方や表現の工夫に着目させ、それがどのような効果を生んでいるかを捉えさせましょう。
- 表現の工夫等の効果によって、**どのように読みが広がったり深まったりするか**を捉えさせ、「新たな魅力」としてまとめさせましょう。

より効果的な学習活動へ

- ・ 既習の中学校教材を活用することも可能
- ・ 新たな教材の学習に入る前の導入としても効果的
- ・ 身に付けた力を「書くこと」や「話すこと」の学習活動で生かせるようにすることも大切

「読む力」を着実に育成するために……

- ◆ 学習を通じて身に付けさせたい力が明確になっていますか？（ねらいの明確化）
- ◆ 身に付けさせる力を育む効果的な学習活動を工夫していますか？（言語活動の充実）
- ◆ 身に付いた力を実感できる場面を設定していますか？（自己評価・相互評価の工夫）



6 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的に応じて要旨を捉えたり、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くしたりすることができる。

(1)(2) 課題に即して文章を読み、課題解決のために必要な情報を正確に取り出すことができる。

【必要な情報を正確に取り出す力】

【問題の概要】

国語の授業で、「私たちの未来の暮らし」というテーマについて、次の【資料1】、【資料2】をもとに自分の意見や考えをまとめ、発表することになりました。このことを踏まえ、【資料1】を読み、【資料2】を参照しながら、あとの問いに答えなさい

(【資料1】の文章は、池谷裕二「人工知能が教えてくれるもの」による。【資料2】のグラフは、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」より作成) 資料編参照

- (1) 【資料1】から「私たちの未来の暮らし」というテーマについて考えるのに必要な情報を取り出して整理したものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア AIは精神力や集中力だけでなく成長の速さも際立っているため、もはや人間の手の届かないレベルの存在である。
 - イ AIは人間の仕事を奪うものではなく、人間の弱点を補助したり、人間の労働や作業を代行したりするものである。
 - ウ AIは人間の計算力を向上させるためのツールであり、安価な量産型電卓をつくるためには欠かせないものである。
 - エ AIは囲碁で人間に勝利したが、詩や音楽や絵画などの芸術分野では、人間に追いつくことはできない存在である。
- (2) 【資料2】から「私たちの未来の暮らし」というテーマについて考えるのに必要な情報を取り出して整理したものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 四十年後には、生産年齢人口が現在よりも大きく増加し、総人口における割合は現在のほぼ二倍になる。
 - イ 四十年後には、総人口は現在よりも増加するが、総人口における高齢者人口の割合は現在と変わらない。
 - ウ 四十年後には、全ての世代の人口がほぼ同じ割合で減少し、総人口は現在のおよそ半分にまで減少する。
 - エ 四十年後には、生産年齢人口は現在よりも大きく減少し、総人口における高齢者人口の割合が上昇する。

【結果分析】

(1)	ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
	26.3%	63.1%	5.4%	4.4%	0.1%	0.8%

(2)	ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
	5.5%	7.2%	9.9%	76.4%	0.1%	1.0%

6 (1)(2)は、課題に即して文章を読み、課題解決のために必要な情報を正確に取り出すことができるかをみる問題である。

(1)の正答は「イ」で、63.1%の正答率である。誤答で最も反応率が高かったのは「ア」の26.3%である。この誤答の要因として、AIの性質については文章から正確に読み取ることができたが、テーマに沿った情報を取り出すことができなかったことによるものと考えられる。

(2)の正答は「エ」で、76.4%の正答率である。誤答の要因として、「ア」は現在のグラフと四十年後のグラフとを逆に捉えてしまったこと、「イ」はどちらのグラフからも情報を正確に読み取ることができなかったこと、「ウ」は人口の減少については読み取ることができたが、割合等についての情報を正確に読み取ることができなかったことによるものと考えられる。

(1)、(2)を誤答した生徒には、文章や図表などから正確に情報を読み取ることの指導を丁寧に行うとともに、課題に応じて読み取った情報を取捨選択したり組み合わせたりすることの指導を行うことが必要である。

- (3) 課題を解決するために、文章やグラフから取り出した情報を比較・関連付けて読み取ることができる。
【比較・関連付けて読み取る力】

【問題の概要】

(1)と(2)で整理した内容をもとに、「私たちの未来の暮らし」というテーマについて考えるとき、どの内容からどのように考えればよいですか。最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間の労働を代行するA Iの性質と生産年齢人口の減少とから、働き手の不足をA Iでどう補うかを考える。
- イ 成長が速いA Iの性質と全ての世代の人口の同じ割合での減少とから、A Iを活用した人口の増加を考える。
- ウ 人間を高めるA Iの性質と減少する高齢者人口とから、人間とA Iとではどちらが優れているかを考える。
- エ 優れた芸術をつくり出すA Iの性質と生産年齢人口の増加とから、労働と芸術活動との違いについて考える。

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
71.8%	13.6%	6.9%	6.4%	0.1%	1.2%

6 (3)は、課題を解決するために、文章やグラフから取り出した情報を比較・関連付けて読み取ることができるかをみる問題である。正答は「ア」で、71.8%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高かったのは「イ」で13.6%であった。この誤答の要因として、(1)の「ア」(反応率26.3%)の内容と(2)の「ウ」(反応率9.9%)の内容をもとに捉えてしまったことによるものと考えられる。

誤答した生徒には、複数の情報をもとに考えられることを整理させる学習活動に取り組みせ、内容の理解から、理解をもとに思考したり判断したりする力の育成を図ることが大切である。

- (4) 読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決することができる。

【意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力】

【問題の概要】

【資料1】と【資料2】をもとに、「私たちの未来の暮らし」というテーマについての考えをまとめたものとして最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 未来の暮らしでは、今の人間とA Iの立場が逆転し、A Iが人間を育てたり成長させたりするようになる。その結果として、人間は感情に流されることなく平和で安定した社会をつくっていくようになるだろう。
- イ 未来の暮らしでは、あらゆる分野でA Iが人間を追い越すので、人間は労働や作業をする必要がなくなる。そのことにより、人間は芸術活動や創作活動といった人間にしかできないことをするようになるだろう。
- ウ 未来の暮らしでは、A Iと人間との共存関係がより深まり、多くの分野でA Iが人間を支えるようになる。それとともに、人間にしかできないことは何なのかという問いを私たちは考えていくことになるだろう。
- エ 未来の暮らしでは、A Iがより人間らしさをもつようになり、人間とA Iの区別が分からないようになる。その一方で、人間は人間らしさを取り戻すために職業を離れ自然の中で生活していくようになるだろう。

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
5.4%	10.0%	78.4%	4.7%	0.2%	1.3%

6 (4)は、読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決することができるかをみる問題である。正答は「ウ」で、78.4%の正答率である。【資料2】から読み取った生産年齢人口の将来的な減少と【資料1】から読み取ったA Iの性質を適切に関連付け、人間とA Iとの共存関係のより一層の強化を捉えることで、正答を導くことができる。また、それらと表裏のものとして、「人間に何ができるのか」、「人間らしさとは何か」といった課題が見えてくることを捉えることが求められる。

本設問のように、文章を読んで内容を正確に理解するだけでなく、テーマ（課題 ここでは「私たちの未来の暮らし」というテーマについて考えをまとめ発表する）を設定し、その課題に沿って文章を読ませたり、情報を収集・整理させたりする取組を通して、必要に応じて的確に情報を処理できる力を身に付けさせることが大切である。

【授業改善のポイント】主体的に情報に向き合い課題を解決する力を育む指導の充実を図る

問題解決的な学習活動を設定し、段階的に課題を解決していける力を着実に身に付けさせる指導を工夫することが大切である。

課題

文章の内容を正確に理解することは、比較的にできている。
その一方で**目的に応じて読んだり、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめたりすることに課題**がある。

その結果…… 課題に沿って情報を分析・解釈し発信することができない。

目的に応じて情報を処理し、自分の考えを形成して発信する力を育成する

【問題解決的な学習活動を効果的に取り入れる】

「情報の収集・処理→考えの形成→発信」の学習過程を可能とする課題を設定する。

【活動のゴールと学習のゴールを意識させる】

単元を通じて「何をするのか」、「どのような力を身に付けるのか」を明示し、意識させる。

〈指導例〉どこまで子供？ どこから大人？ —情報から考え、情報を発信する—



課題とゴールを明確に示す

◆活動◆

どこまでが子供で、どこからが大人だと考えるか、資料を活用し、根拠を明確にして、自分の考えを発表する。

◆ねらい◆

根拠となる情報を収集・処理し、自分の考えを形成し、情報を活用しながら説得力をもった発表ができる力を身に付ける。

指導のポイント！



- 課題に対する「正解」はなく、「何を根拠に」、「どう考え」、「どう発信するか」が重要であることを意識させましょう。
- 自分の考えを述べるのに都合のよい情報を集めるのではなく、**情報と客観的に向き合う中で自分の考えを形成**させるようにしましょう。
- 発表の際に**効果的に情報を活用**することを意識させましょう。

**より効果的な
学習活動へ**

- ・情報の扱い方に関する指導は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの領域の指導と関連させて行うことが効果的
- ・文献等の引用の仕方、著作権の保護に関する知識や考え方、情報の信頼性の確認の大切さなどについて、継続的に指導していくことが必要

主体的に情報に向き合えるようにするために……

- ◆学校図書館を効果的に活用していますか？（安易にインターネットに頼らない）
- ◆自然科学や社会科学などの分野に関する読書も薦めていますか？（興味・関心の拡大）



7 目的や意図に応じ、書くための材料を集めながら自分の考えをまとめたり、集めた材料を分類するなどして整理したり、自分の考えを根拠を明確にして書いたりすることができる。

(1) 集めた材料をもとに自分の考えをまとめ、材料を分類するなどして整理して書くことができる。【書く能力】

【問題の概要】

国語の授業で、小学校の六年生に自分たちの通う大江戸中学校の魅力を伝える「学校紹介パンフレット」をつくることになりました。吉崎さんは、大江戸中学校の学校図書館の魅力を紹介しようと考え、次の【取材メモ】(図版省略 資料編参照)をつくりました。このことを踏まえて、あとの問いに答えなさい。

吉崎さんは、【取材メモ】を見て、大江戸中学校の学校図書館の魅力として、生徒が学校図書館の運営に参加できることを伝えたいと考えました。記事を書くために使うメモの内容を、【取材メモ】のAからEまでの中から三つ選び、すべて記号で答えなさい。

- A 蔵書数一万八千冊。→市内の中学校で最も多い。
- I 図書館内に季節ごとの特集コーナー。(図書委員会で話し合い)
- U パソコンコーナー→本だけでは調べられないことも、すぐに調べられる。
- E 月に一度、朗読会や本の紹介。(読書が好きな生徒が増えるように)
- O 「リクエストボックス」(図書館に入れてほしい本をリクエスト)→図書委員が先生と相談して決定。
- K 辞書や学習参考書が豊富。静か。定期テスト前の勉強場所としておすすめ。

【結果分析】

「イ・エ・オ」と解答(正答)	2つは正答だが「ア」を選択しているもの	2つは正答だが「ウ」を選択しているもの	2つは正答だが「カ」を選択しているもの	その他	無解答
41.5%	6.8%	7.8%	9.1%	32.7%	2.1%

7(1)は、集めた材料をもとに自分の考えをまとめ、材料を分類するなどして整理して書くことができるかをみる問題である。正答は「イ・エ・オ」(完答)で、41.5%の正答率である。誤答で最も反応率が高かったのは「カ」を選択しているもので、9.1%であった。この誤答の要因として、図書館の「魅力」としての要素に着目してしまい、「生徒が学校図書館の運営に参加できること」を書くという趣旨に沿うことができなかつたことによるものと考えられる。

(2)①② 伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。【書く能力】

【問題の概要】

吉崎さんは、大江戸中学校の生徒たちの学校図書館の利用状況についての記事を書くために、学級の生徒にアンケートをとり、その結果を次の【アンケートの結果】(図版省略 資料編参照)にまとめました。

- ① 吉崎さんがこのアンケートをとった目的として最も適切なものを、次のAからEまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 - A 学校図書館の利用回数や借りる本の冊数の多さを、他の学校の数と比べながら伝えるため。
 - I 小学校の学校図書館とは異なる利用方法について、数値を用いながら客観的に伝えるため。
 - U 多くの生徒が学校図書館を積極的に利用していることを、説得力があるように伝えるため。
 - E 学校図書館に行くことが好きではない生徒もいるという事実を、隠さず正直に伝えるため。
- ② このアンケートの(質問2)(*あなたは一週間に何回、学校図書館を利用していますか。)の結果を「学校紹介パンフレット」に示す際の、効果的な示し方として最も適切なものを、次のAからEまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。
 - A 棒グラフ(図版省略)
 - I 折れ線グラフ(図版省略)
 - U 写真(図版省略)
 - E 全員の回答の一覧(図版省略)

【結果分析】

①

ア	イ	ウ(正答)	エ	その他	無解答
7.7%	9.1%	74.1%	7.3%	0.2%	1.6%

②	ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
	81.1%	6.5%	6.5%	3.9%	0.2%	1.8%

7 (2)①②は、伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかをみる問題である。

①の正答は「ウ」で、74.1%の正答率である。アンケートの結果が何を示しているかを読み取り、それを「学校図書館の魅力」と関連付けることで、正答を導くことができる。

②の正答は「ア」で、81.1%の正答率である。「(質問2)の結果」は借りた冊数ごとの人数をまとめたものであり、棒グラフで表すことでより効果的に示すことができる。

誤答した生徒には、課題を示し、その解決のためにどのような調査が必要か具体的に考えさせたり、実際に調査を行わせて図表を作成させたりするなどの活動に取り組みさせることが効果的である。

(3) 伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。

【書く能力】

【問題の概要】

吉崎さんは、次の【吉崎さんの学校紹介パンフレットの原稿】(図版省略 資料編参照)のAの部分に、【取材メモ】をもとにして、中学生らしい学校図書館の利用のしかたを書こうとしています。この部分に書く内容として最も適切なものを、あとのアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 学校図書館を利用する機会が多いので、ほとんどの生徒が一月に五冊以上の本を借りていること。
- イ いつでも快適で辞書や参考書なども豊富なので、自主学習の場として活用している生徒も多いこと。
- ウ 蔵書数が市内の中学校で最も多いので、多くの生徒が授業以外でも学校図書館を利用していること。
- エ 学校図書館の運営が全て生徒に任されているため、読みたい本はすぐにリクエストをしていること。

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
4.2%	83.9%	6.6%	3.3%	0.2%	1.9%

7 (3)は、伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかをみる問題である。正答は「イ」で、83.9%の正答率である。誤答の要因として、「ア」はアンケートの結果を誤って読み取ってしまったこと、「ウ」は蔵書数が多いことと中学生らしい図書館の利用の仕方とを混同してしまったこと、「エ」は既に他の箇所に書いている内容であることを捉えることができなかったことによるものと考えられる。

誤答した生徒には、(1)と同様に、書くための材料を分類・整理する活動に取り組みさせることが必要である。

(4) 適切な関心・意欲・態度をもって、書くことについての学習に取り組もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

【問題の概要】

あなたが六年生に対して「学校紹介パンフレット」を書くとしたら、どのようなことを意識して書きますか。次のアからエまでの中には適切なものがいくつかありますが、あなたの考えに最も近いものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 難解な言葉や学習していない漢字は使わずに、六年生にも分かりやすい言葉を選ぶように意識して書く。
- イ インターネットで調べた他校の学校紹介パンフレットを、そのまま全て取り入れるように意識して書く。
- ウ 六年生が読んですぐに理解できるよう、内容を整理して具体例を示しながら伝えるように意識して書く。
- エ 相手に語りかけるような文章にするなど、六年生の気持ちを引きつける工夫をするように意識して書く。

【結果分析】(下段の「平均正答率」とは、それぞれの選択肢を選んだ生徒の国語における平均正答率を表す。)

	ア (正答)	イ	ウ (正答)	エ (正答)	その他	無解答
反応率	14.5%	2.0%	47.6%	33.7%	0.3%	1.9%
平均正答率	72.9%	45.5%	75.6%	73.0%	52.0%	40.5%

7(4)は、適切な関心・意欲・態度をもって、書くことについての学習に取り組もうとしているかを見る問題である。正答は「ア」、「ウ」、「エ」のいずれかで、95.8%の正答率である。「ア」(正答)は読み手を意識し、読み手に応じた語句や表現を用いて書こうとしている。「イ」(誤答)は他の著作物の盗用である。「ウ」(正答)はより分かりやすくすることを意識し、内容を整理したり例を示したりしながら書こうとしている。「エ」(正答)は表現の効果を意識し、読み手に興味・関心をもって読んでもらえるよう工夫して書こうとしている。

正答に対する反応率の高さの順(ウ>エ>ア)と教科全体の平均正答率の高さの順(ウ>エ>ア)が同じになっており、書くことの指導を行う上での課題を見いだすことができる。

【授業改善のポイント】自分の考えを根拠を明確にして書く力を育む指導の充実を図る

書くための材料を集め、分類・整理しながら自分の考えをまとめる過程に重点を置いた指導を工夫することが大切である。

課題

目的や意図に応じて書くために必要なことは理解できている。

その一方で、書くための材料を分類・整理しながら自分の考えをまとめることに課題がある。

その結果…… 根拠を明確にして自分の考えを書くことができない。

材料をもとに自分の考えをまとめ、根拠を明確にして書く力を育成する

【自分の意見や考えを形成することを重点的に指導する】

どのような材料からどのように考えたのか、思考の過程を確かめながら考えを形成するよう意識させる。

〈指導例〉20年後の暮らしを予測する —データを生かす・根拠を固める—

◆活動◆

自分で設定した分野について、20年後にどのように進歩・変化しているか、調べたことをもとに意見文を書く。

◆ねらい◆

根拠となる情報を収集・処理し、自分の考えを形成し、情報を活用しながら説得力をもった文章を書く力を身に付ける。

課題とゴールを明確に示す



指導のポイント!

- 住居、学校生活、食生活、家電製品、交通、医療、環境問題などの中から課題を設定させ、文献資料やデータから考えを形成していく過程を記録に残させましょう。

より効果的な
学習活動へ

・あらかじめ文章の型や枠組みを示すのではなく、どのような根拠やデータをどのように活用して意見を述べるか工夫させることが重要。

根拠を明確に示すことができるようにするために……

- ◆発言の際などにも常に「そのように考えた理由」を示させていますか？(日常の継続指導)
- ◆複数の資料やデータなどをもとに考えさせる指導を行っていますか？(理解から思考へ)

